

小平町

豊かな自然、グルメ、歴史
どこから触れるかはあなた次第



重要文化財 旧花田家番屋

かつての北海道の経済を支えたニシン漁。特に日本海沿岸に漁場の跡や番屋が点在する留萌地域には「ニシン街道」があり、当時の活気を偲ばせる。中でもこの旧花田家番屋は、建造物としては最北端の国指定重要文化財であり、現存する番屋の中では最大の規模だ。建てられたのは明治38年頃。木造平屋（一部2階）建ての豪華な建物は、まさに「ニシン御殿」の名にふさわしい造りだ。当時は花田家の一族と、「ヤン衆」と呼ばれるニシン漁の季節労働者や船大工などの職人らがここで働き、暮らしていた。その数、何と200人超。いかに繁栄していたかが分かる。

現在、番屋は一般公開されている。往時の人々の熱気に思いを馳せてみてはいかがだろうか。



網元・花田家の居住空間は贅を尽くした造り。「網一起こして千両」と言われた当時の羽振りの良さが伺える。



広い板敷きの居間。漁期には200人ものヤン衆が寝泊まりし、立ったまま食事をしたという。



ニシンを運ぶための「モッコ」や漁網など当時の貴重な資料を展示している。



小平町キャラクター
おびまる

小平町の歴史は古く、江戸時代から大正時代にかけてはニシン漁で栄え、昭和中期にかけては留萌炭田を抱える産炭地として活況を呈していた。現在は漁業と農業のまちとして多くの農水産物を生産している。海の恵みを楽しむなら白谷漁港へ。漁師の直売店から水揚げされたばかりのホタテや、その場で茹で上げられたタコなど、魚介類が格安で並ぶ。遊びなら海水浴やキャンプ、スキー場、おびらしべ湖への散策なども良い。疲れたら「ゆつたりかん」で汗を流して一休み。

歴史に触れるなら、旧花田家番屋へ。道内で現存する中で最大の規模を誇るニシン番屋だ。また、松浦武四郎の銅像や「二船殉難事件」の慰霊碑など、歴史の一端を学べる場所も多い。一見のどかだが、中は「濃い」。そんな小平に足を運ぼう。

松浦武四郎の銅像

三重県出身の松浦武四郎は約13年間にわたって約6回の調査を行い、小平町にも4度訪れている。



留萌郡小平町字鬼鹿広富

樺太三船殉難事件慰霊碑

慰霊碑の他にも「平和の祈り」の海に誓う「慟哭の碑」が建つ地。泰東を指す沈没地点を指す方位盤もある。



留萌郡小平町字鬼鹿広富

小平の歴史も知ろう！

旧花田家番屋の向かい側、国道232号線をはさんで海側には「にしん文化歴史公園」があり、松浦武四郎の像がある。また、モニメントの台座には、武四郎が鬼鹿を訪れて詠んだ短歌「名にも似ずすがたやさしき女郎花 なまめき立てる おにしかの里」が刻まれている。ここから眺める夕陽の美しさも格別だ。当時の彼もまた、日本海へ沈む夕陽を見たのだろうか。

一方で、忘れてはならない悲劇がある。それが「三船殉難事件」だ。終戦直後の1945年8月22日、留萌沖で樺太からの引き揚げ者に乗せた「小笠原丸」「第二号新丸」「泰東丸」の3隻が、旧ソ連軍の潜水艦による砲雷撃を受け、約1,700人が亡くなった事件である。鬼鹿海岸には「三船遭難慰霊之碑」が建てられており、同町の郷土資料館には沈没した泰東丸の遺品が展示されている。祖国を目前にしながら帰国もかなわず亡くなった人々に、哀悼の意を捧げたい。

うに井街道

小平町産のうには夏の6月〜9月限定。この時期のみ「おにしんかつインビーチ」そばに軒を連ねる3店舗がうに井を提供する。



すみれ
小平町字鬼鹿港町212-4
TEL 0164-57-1451

ニシン料理

ニシン御殿にちなみ、「にしんそば」「やしん親子丼」の他、郷土料理である「にしんの三平汁」が人気。その名の通り「三平汁」で供される。



食材供給施設
小平町字鬼鹿広富 道の駅おびら鯨番屋内
TEL 0164-56-1411

そば&カフェ

そばは皮むきから粉挽きまで店主が一人で行っている、小平産100%そば粉を使ったそばは1日30食限定。そばクレープなどカフェメニューも。



そば&カフェ からくれ
小平町字小平町116-1
TEL 0164-56-1188



お食事処 蔵
小平町字鬼鹿港町163
TEL 0164-57-1299



じょぐら
小平町字鬼鹿元浜
TEL 0164-57-1525
(10月〜6月まで休)



自谷海小谷場 ▲
浅遠で子どもからお年寄りまで安心して遊べる海水浴場。炊事場・水洗トイレ・シャワーを完備し、一日中快適に楽しめます。

小平を満喫！
アウトディビティ！！

小平町字臼谷 TEL.0164-56-2710 (シーズン中)

おにしんかつインビーチ ▲

クロスト・ビーチ&オープン・ビーチ、個性の異なる2つのビーチの他、屋根付きのセンターハウスでBBQコーナーも完備。



小平町字鬼鹿元浜
TEL.0164-57-1951 (シーズン中)

小平町B&G海洋センター



艇庫はヨット・カヌーなどが体験できる数少ない海洋性スポーツ施設(団体の予約者のみ利用可)で、付近にはキャンプ場や陶芸施設があり、各種団体の宿泊研修等にも利用されています。
留萌郡小平町字小平町458-3
TEL.0164-59-1216

都市農村交流施設 ゆうゆうそう(夕遊館) ▲



都市と農村の交流を図ることを目的とした施設。地元農産物の加工体験ができ、宿泊も可能。周辺には、気軽に陶芸が体験できる陶工房なども。

望洋台スキー場 ▲



眼下に小平市街地と日本海を見下せるローション。良質な雪質のグレンデは、初心者から上級者まで十分に楽しめる。スキー場もOK。
小平町字小平町534-1
TEL 0164-56-2244 (シーズン中)
※オフシーズンは小平町B&G海洋センター(0164-59-1216)へ

※▲はキャンプ場又はテントを張れる場所です。



にしん文化歴史公園 ▲ 花岡海岸 ▲

おびらの思い出に
フォトスポット

花岡海岸は道内でも有数のアオバトの撮影スポット。5月中旬〜9月下旬には多くの愛好家が訪れる。にしん文化歴史公園は夕陽が映える夕暮れが狙い目。



温泉に寄ってこ宿泊もできる温泉施設。「活性の湯」も呼ばれている光明石温泉は疲労回復、神経痛、腰痛などの効能の他、美肌効果もあるとか。レストラン「黄陽」では、地元食材を使ったメニューが食べられる。

ゆったりかん
小平町字小平町458 TEL 0164-56-9111

道の駅 おびら鯨番屋

道の駅おびら鯨番屋エリアは、「休」がテーマの「小平町観光交流センター」、「食」がテーマの「食材供給施設」、「観」がテーマの「重要文化財 旧花田家番屋」の3つの建物から成り立っている。町内で生産された特産品の販売の他、歴史文化保存展示ホール、休憩コーナーや24時間利用可能なトイレを完備しているのでドライブ中の休憩にぴったり。



〒078-3454
小平町字鬼鹿広富
TEL.0164-56-1828

イベント情報

5月 鯨番屋まつり
かつてニシン漁で栄えた時代を今日に伝える「旧花田家番屋」前広場にて開催。会場では、三平汁の無料配布なども行われる。小平町教育委員会社会教育課文化係
TEL 0164-56-9500

8月 小平町産業まつり
人気は希少なおびらと牛が食べられる。野外バーベキューコーナー。芸能発表や歌謡ステージの他、メロンやカボチャ、ホタテなど、地元特産品の直売もある。小平町産業まつり実行委員会事務局
TEL 0164-56-2111 (小平町経済課農林係内)

小平のおみやげコレクション!!



魚介類(ホタテ、タコ、ヒラツメガニ他)

白谷漁港を代表する海の幸・ホタテ。殻つきの活ホタテはキャンプや海水浴のバーベキューに欠かせない一品。タコは店内の釜で茹で上げ、その場で茹で直売している。他にもその日の朝、白谷漁港で揚がった鮮魚各種やヒラツメガニなど魚介類が並び、その安さに驚かされる。
白谷漁港 漁師の店直売所 小平町字臼谷

一杯だこ
地元の老舗水産加工会社が、新鮮なタコを自社工場加工。見た目も強烈なタコ一杯だこの焼製「一杯だこ」は、一番人気で噛めば噛むほど味が出る。有限会社 藤田水産
小平町字鬼鹿広富
TEL 0164-57-1048

おびら牛のハンバーグ
希少なおびらと和牛の肉を100%使用した手作りハンバーグ。レアな和牛をリーズナブルに食べられて、お土産にもおすすめの一品。ほっぷすてっふ
小平町字鬼鹿代585番地
TEL 0164-57-1188

アイボリーメロン
小平町でしか生産されていない「アイボリーメロン」。網目のない白く美しい外観が特徴でジュースなど上品な甘みは、まさに絶品。※7月中旬〜8月上旬のみ販売
道の駅おびら鯨番屋 観光交流センター
小平町字鬼鹿広富
TEL 0164-56-1828

おびら牛のカレー
小平産黒毛和牛をふんだんに使用したコクのある味わい豊かなカレー。ほっぷすてっふ
小平町字鬼鹿代585番地
TEL 0164-57-1188

